

Doshisha Spirit Tour 2012

「安中・会津キャンプ」

文と写真 こしかわ 越川 ひろひで 弘英 (大学キリスト教文化センター副所長)

会津若松城(鶴ヶ城)にて

【長い前書き】

キリスト教文化センターでは、同志社ゆかりの土地を訪ね、同志社の歴史や人物の足跡をたどりながら、同志社人としての自覚を深めると共に、学部や学年を超えて交流する機会として、Doshisha Spirit Tourを、毎年9月に実施してきた。当初の目的は熊本で、創立直後の同志社に決定的な影響を与えた「熊本バンド」の故郷を訪ねることをねらいとするキャンプを行ってきた。

ところが、一昨年、こうした「熊本キャンプ」に代えて、新たに新島襄の生誕地である東京と故郷である安中を訪ねるキャンプを企画してみてもどうかという意見が出てきた。そして2泊3日で可能なコースとスケジュールをまとめ、「安中キャンプ」と銘打ったプログラムを実施した。具体的には、第1日目、まず東京駅の近くにある同志社・東京オフィスを訪ねて開会式を行い、次いで神田の安中藩邸跡にある新島生誕地の記念碑、そして小崎弘道の開拓伝道から始まった霊

南坂教会を見学。同日中に安中(群馬)に移動し、翌日は新島学園中学校・高等学校、新島家旧宅、龍昌寺、有田屋さん(湯浅家)、安中教会を訪れる。その晩、群馬県の校友会の皆様と高崎市内で交流会。3日目に新島学園短期大学を訪問し、まとめと閉会式を行うという流れだった。

その後、昨年は「熊本キャンプ」、そして今年は再び「安中キャンプ」というかたちで隔年交代の実施となる予定だった。通常であれば一昨年のコースを踏襲すべきところ、ご承知のように、にわか

能だからやるかどうかはまた別問題である。しかしこれもまた、しだいしだいに可能だから「やってみたら」が「やってみよう」に変わっていく、とうとう「瓢箪から駒」のような話で「安中から会津」へのキャンプを決定することとなったのである。

決定はしてみたものの、実際に学生が応募してくるかどうかはさらにまた別の問題である。ここで少し内情を暴露しておく、このキャンプは例年15名定員の募集で、最少催行人数10名としているのだが、決まって募集期間のぎりぎりまで10名を満たすか満たさないかという状態で、毎年はらはらしながら実施が中止かを占うといった事態が続いてきた。そう

は言っても最終的にはいつも10名をオーバーしてきたので、これまで一度も中止になったことはないのだが、さて今回の「安中・会津」という試みが吉と出るか凶と出るかは神のみぞ知るである。

年の熊本キャンプに参加した学生たちがまとまってリピーターとして応募してきたからだが、それ以外にもなかなかユニークな動機で応募してきた学生が何人もおり、例年にもまして活力のあるキャンプになりそうな期待が当初から感じられたのであった。

さて長々とした前書きはこれくらいにして、実際のキャンプがどういうものだったのか、日を追って記していくことにしよう。

【第1日目(京都から安中へ)】

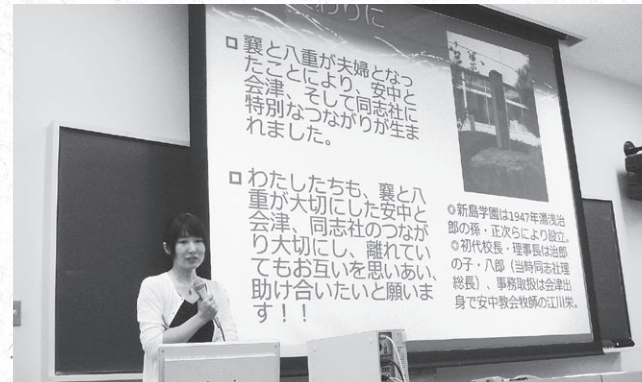
9月5日午前8時30分。京都駅集合。東京や高崎で合流する学生もいるので、京都から出発するのは学生12名、キリスト教文化センターのスタッフ4名である。東海道新幹線は9時51分に京都駅発、11時33分に東京駅着。ただちに北陸新幹線に乗り換えて、11時44分に東京駅発、12時33分に高崎駅着。今回は東京は素通りである。

高崎駅からタクシーで新島学園短期大学へ。学校の教室をお借りして開会式を行った。学長の狩野俊郎先生から挨拶

【第2日目く安中めぐりから会津へ】

この日は午前8時に宿舎を出発、新島学園中学校・高等学校を訪問し、その後、新島家旧宅、安中教会を巡ってから、会津若松へバスで移動する。その後、宿舎内での学生企画プログラムである。移動時間確保のため、一昨年に比べ、安中での見学箇所を半減しなければならなかった。

新島襄の教育理念を継承して、新島ゆかりの地である安中に「新島学園」（中学校・高等学校）が誕生したのは1947年のことである。短期大学は1983年に創設された。今回も校長先生をはじめ、学園の皆様から温かく迎えていただいた。数年前に完成したフィリアホールで、校長先生からご挨拶いただき、学園の歴史、新島襄や同志社との関わりなどをあらためて伺う。その後、学園内を見学し、礼拝堂（講堂）では今年も特別にパイプオルガンによるミニコンサートを行っていただいた。学内の一角には「良心碑」が立っている。この良心碑の石材は同志社大学今出川キャンパスにある良



新島学園短期大学・山下先生のミニ講義

をいただいた後、同校の山下智子先生から新島八重の生涯についてのミニ講義をうかがう。山下先生は同志社大学神学部出身で、牧師として会津若松教会で働いておられたこともある。

その後、高崎市近郊の宿舎に寄ってから、現地校友会の皆様との交流会会場に



現地校友会との交流会

移動した。会場は「マリエール高崎」という結婚式場・披露宴会場である。一同、「おおー」と驚くような豪華な建築、広い会場だった。校友会の方が経営されている施設であり、今回のキャンプのためにご提供くださったと伺った。熊本でも同様だが、このような大学の企画、と

心碑と同時期に同じ場所から採石されたものだという（まことに兄弟碑なのだ）。

学園内でお昼をいただいてから、新島家旧宅へ移動。明治維新後、江戸から安中に引き上げてきた藩士のために作られた住宅のひとつで、新島襄の両親と家族が暮らしていた建物である。約十年のアメリカ滞在を終えて横浜に着いた襄が、



新島学園中学校・高等学校（パイプオルガン）

くに学生中心のプログラムに対し、各地の校友会の皆様がほんとうに熱心にご支援ご協力をいただいていることについて同志社人としての力強いつながりを感じる。この場を借りて、心から感謝を申し上げたい。こうした諸先輩方の物心両面の支えがどれほど大きなものであるかは、参加した学生一人ひとりが飲食を共にしながら、いちばんよく感じ取っているはずである。

学生企画のひとつとして、現地校友会の皆様最新の同志社事情をお伝えするひとときがあった。私たち教職員としては「準備はしっかりできてるんやろか」といつもはらはらドキドキだが、例年なんとかやり遂げてしまうところに学生の底力みたいなものを感じる。今回もパワーポイントを使いながら、クイズなどを交えたプレゼンテーションで、ますますの出来であった。

午後8時、カレッジソング、同志社チャード、交流会はお開き。宿舎ホテル・ニューサンピアに戻って、この日の予定は終了。夜に学生が自主的なミーティングを行っていたようだが詳細は不明。

取るものも取りあえずに人力車を雇って安中に直行し、両親と再会した家である。もともと現在の建物は元の場所からは移設されている。数年前に敷地脇にこぎつぱりした公衆トイレができたのはよいのだが、どうも居宅に近すぎて、写真などを撮るときには邪魔になるのがいささか残念である。建物の一部に展示室があつ



新島家旧宅にて

て、新島襄はじめ同志社関係の資料も並べられている。管理人さんが話し好きの方で、同志社の人間だと言うと喜んで歓迎してくださった。

少々雨模様となってきた中を安中教会に移動。途中、二人ほど学生が行方不明になる。「なんだ、なんだ」と騒いでいると、こっそり有田屋さんに寄って買い物をしてきたとか…。

安中教会礼拝堂（新島記念会堂）は石造りの立派な建物で、広い敷地の中にはこの他にも幼稚園、教育館、牧師館、「義円亭」（柏木義円の書齋）などが木々と共に散在する。礼拝堂の入り口の上には新島家の家紋「根笹」が彫り込まれている。私もいろいろな教会を見てきたが、家紋付きというのはおそらくここだけではないだろうか。江守徹牧師から安中教会と新島や同志社との関わりを伺った。

午後2時頃、安中を出発。バスで会津若松までおよそ5時間。これでも最近、新しい道路が開通したのでこの時間で移動できるようになったのだそうだ。鉄道を使うと、安中から高崎へ、そこから上越新幹線で大宮（埼玉）まで戻り、東北

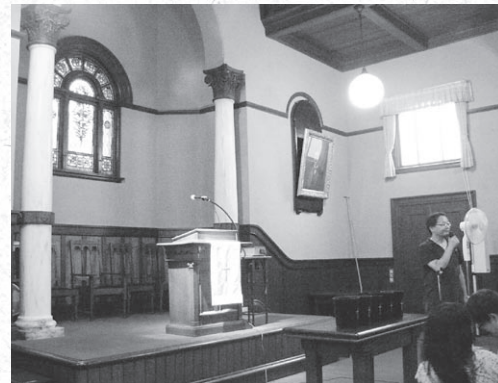
ついていた学生がいたようだ。夜中に上の階でどたどた走り回る音がする。もしやと思ったが、翌朝聞いたところではうちの学生ではなかったらしい。

【第3日目】会津にて

最終日である。まず八重と山本寛馬の生誕地跡を訪れた後、会津若松城（鶴ヶ城）、そして最後に会津若松教会で閉会式を行う予定。

1989年に同志社が作った生誕地の記念碑は道路に面した民家の一角にあるが、正確にはそこから数十メートル離れたところが山本家の所在地だったという。今回訪れてみると、現在駐車場となっているその土地の一画に案内板が掲げられていた。しかしほんとうに案内板しかない。来年までにはここにも何かできるのだろうか。

会津は戊辰戦争最大の激戦地のひとつであり、八重は男装で籠城し、降伏・開城まで戦い抜いた。白虎隊の悲劇もよく知られている。現在の会津若松城は1965年に再建されたものだが、内部は会津の歴史を中心になかなか充実した展示



安中教会・礼拝堂

新幹線で郡山まで、さらに乗り換えて会津若松ということになる。乗車距離342kmである。いずれにしても移動時間と距離はかなりのものである。しかし道路は新しくて渋滞はなかったし、山の景色も夕焼けも綺麗だったし、まあいいじゃないですか：などとスタッフ同士で慰め合う。

予定よりもやや早く会津若松市内の宿舎ホテル・ニューパレスに到着。宿舎のすぐ前が「野口英世青春広場」という不

の場となっている。そして土産物売り場には早くも八重関連のグッズがいろいろと用意されている。

みんなで記念写真を撮った後、徒歩で会津若松教会へ移動。1891年に会津で最初に開設されたこの教会には、八重も会津に帰郷した折にはしばしば通ったという。山口和憲牧師の司式でキリスト教の礼拝を体験した後、閉会式を行った。それぞれ一言ずつ今回のキャンプの感想を語る。



八重の生誕地（案内板）



学生企画～八重と襄

思議な施設（公園？）になっている。来年は英世よりも八重である。町のあちこちに「八重の桜」の宣伝ポスターが張り出されている。

夕食後、学生企画で明日の見学のための予備学習を行う。八重の生涯をドラマ仕立てで演じた企画が良かった。とくに八重を演じたトライアスロン部の男子と襄を演じたひび付きの女子が大受け（！）。

この日も夜のミーティングで盛り上が

その後、会津若松駅に移動し、ここで実質的な解散となった。予想通り、なかなかの強行軍だったが、それなりに充実していたことも確かだ。長時間のバス移動で腰が痛くなったという学生もいて、「いやあ、このキャンプは今回限りですね」という声もあったが、さて来年はどうなることか。いずれにしてもDoshisha Spirit Tour はこれからも続くことになる（はずである）。



会津若松教会・礼拝堂